



体温よりも気温が高くなる日があった今年の夏。熱中症リスクを回避するため、室内で過ごす時間が増えました。「外で遊べない」と捉えるのではなく、「室内で過ごす時間が多いからこそできることをしよう！」と部屋の環境を工夫。積み木コーナーを広く取り、食事スペースをホールへ移動しました。すると、LaQ（ラキュー）でクラゲやマグロ、イルカを作って積み木と組み合わせた水族館を作ったり、乗り物や飛行機を作って飛行場や駐車場に見立てたりと、新しい表現がどんどん生まれていきました。また、かるたやトランプ遊びも大ブームに。お箸検定も再熱！！室内遊びが充実したことで、子どもたちの集中力が高まったり、新しいお友達関係が広がったりと、たくさんの発見がありました。9月は残暑の様子を見ながら、少しずつ戸外活動も増やしていきたいと考えています。

今月のクラス便りでは、子ども達の成長に伴い「大人の役割」に変化がでてきました。それは、子どもの中に「答えが生まれる余地を消さない」ことです。その内容と意図をお伝えさせていただきます。

子どもの中に「答えが生まれる余地」を大切に。

お泊り会を経て「自立心」が一段と育ち、自分の気持ちを言葉にしたり、深く考えたりする姿が増えてきました。これまでの「困ったら大人に伝える」段階から、次は「自分で考え、判断する」段階へ。それに合わせて大人の役割も「答えを与える」から「答えが生まれる余地を残し、信じて待つ」ことへと変化しています。こども家庭庁の『こども基本法』や『こども大綱』でも、子どもを一人の「権利の主体」と捉え、「自分で考え、選択・判断する主体性」を育むことが大切にされています。園では日常の「考える機会・判断する経験」を増やすため、次のようなやりとりを心がけています。

- ・ [従来の関わり] 困った → 大人に伝える → 大人が答えを出す
- ・ [現在の関わり] 困った → 大人に伝える → 気持ちを受け止め「どうしたい？」と問いかけて待つ → 自分で答えを出す（※難しい時は一緒に考えます。）

問いかけてから答えが出るまでの間、子どもの頭の中はフル回転しています。この「考える時間」を尊重することで、少しずつ自分自身で判断して動ける力へとつながっています。

ご家庭でも子どもたちの中にある「答え」が生まれる瞬間を「信じて待つ」という事を試していただけたら幸いです。一緒にこどもの「生きる力」の基礎を作っていきましょう。

保護者会について

9月12日（土）の保護者会では「今後の予定」と「就学に向けて」と「素敵なお探し」を予定しています。「就学に向けて」は知識と知恵を共有することを目的に行います。就学に関するモヤモヤしていることや不安なことがあれば事前に教えて頂けると助かります。年上のお子さんがいるご家庭からは、体験談や工夫、知恵を教えて頂けたらとおもっています。

「素敵なお探し」は、クラスの集まりの時に「自分の素敵なお探しは？」という問いに答えられる子があまりいませんでした。「心は聞いた言葉でつくられる」なので、改めてお子さんの素敵なお所を一緒に見つけ、子どもの心をつくる大切な「言葉」の材料にしてもらえればと考えています。ぜひご参加ください。